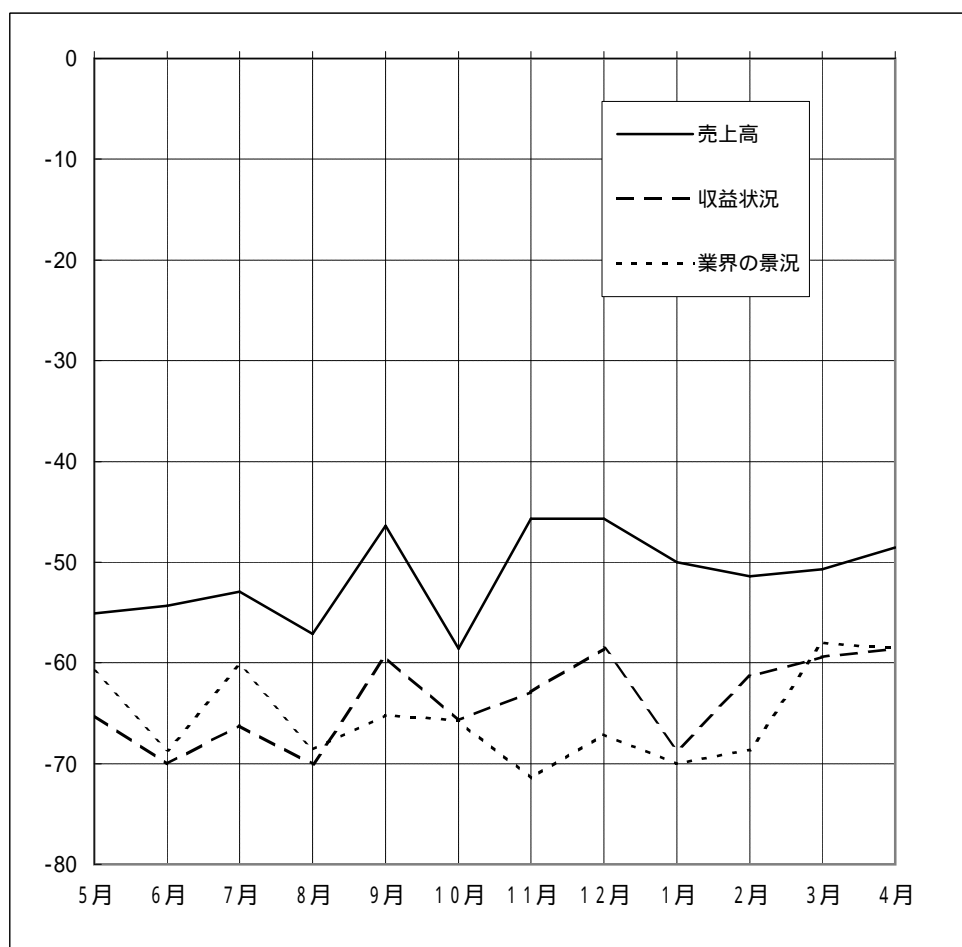


## 業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値 平成14年5月～平成15年4月

単位:ポイント



	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
売上高	-55.1	-54.3	-52.9	-57.1	-46.4	-58.6	-45.7	-45.7	-50.0	-51.4	-50.7	-48.6
収益状況	-65.2	-70.0	-66.2	-70.0	-59.4	-65.7	-62.9	-58.6	-68.6	-61.4	-59.4	-58.6
業界の景況	-60.9	-68.6	-60.3	-68.6	-65.2	-65.7	-71.4	-67.1	-70.0	-68.6	-58.0	-58.6

4月のDI値をみると、「売上高」と「収益状況」の2項目で改善がみられた。「売上高」は、前月より2.1ポイントの改善となり、3ヶ月振りに40%台へ推移している。「収益状況」は、0.8ポイントの若干の改善となり、前月同様50%を継続中である。「業界の景況」は、0.6ポイントと若干悪化した。また、「収益状況」と同様に50%台を継続している。中小企業の景況は、一進一退の様相のなか、緩やかであるが、全体的に右肩上がり推移しているが、際だった回復感に乏しく、依然として厳しい状況下にある。

業種別にみると、製造業では、「繊維・同製品」「木材・木製品」「一般機器」で若干の改善があったものの、「紙・紙加工品」「鉄鋼・金属」で悪化しているためほぼ前月同様の割合である。また、非製造業では、先月全て悪化した「建設業」で、その割合が減ったものの、「商店街」や「運輸業」で悪化し、非製造業で若干悪化した。総体的に非製造業は製造業より景況感が悪い傾向にある。

組合の特記事項からは、「窯業・土石製品」「鉄鋼・金属」「木材・木製品」などの製造業の一部で景気を持ち直しや活発感を得られる報告があったが、一方で需要の減少、原料価格の高騰、低価格競争やイラク問題、SARS問題による国際貿易の悪化を懸念する報告がみられた。製造業では、全体的に需要減少に苦しむ報告が多く、先行きの不安や厳しい環境下にある。総体的に需要減少とデフレによって厳しい状況下が続き、中小企業は体力を磨り減らしている傾向にあることが窺える。